

1

持続可能な地球社会：問題提起

村田 静昭

(名古屋大学総長補佐，大学院環境学研究科教授)

後期の講義では、前期の講義の流れを受けて上質な生活環境を確保することについて取り上げる。講義のスタートにあたり、良質な生活を維持するために必要な、良質の水や食料の確保、良質な社会の構築、健康的な生活とそのリスクについて受講生諸氏と討論する。事前に考を数分間で発表できるようにまとめてもらいたい。

衣と住による気候への挑戦

浅野 千恵

(名古屋女子大学家政学部生活環境学科准教授)

ヒトは何万年もの間、衣服を纏って生活することで、地球上のさまざまな気候や環境に対応している珍しい生物です。衣服は「持ち運べる小さな環境」として身体近傍の気候を快適に調整することができますが、自然の厳しい気候変動や環境に対応するためには、住まいも進化する必要がありました。ヒトは長い歴史の中、どのようにして衣服や住まいを発展させ、自然環境や厳しい気候へ挑戦していったのかについて、概説しながら考察していきます。

伝統衣装・民族衣装に見る気候の影響

日本や世界各地の民族衣装を比較すると、ヒトはそれぞれの地域の気候や環境の特徴に合わせて、衣服の形や素材を選択しながら発展させてきたことがわかります。さらに、伝統衣装の歴史をたどっていくと、ヒトは気候に適した色彩までも感性豊かに選択し、発展させてきたことがわかります。民族衣装や伝統衣装に使用されている素材の特徴や、衣服形式や色彩の変化にまつわる視点から、気候との関連を概説し、考察していきます。

“共有”からはじまる社会福祉

三輪 まどか

(南山大学 総合政策学部・准教授)

現在、私たちの社会において、「孤立」ということが問題視されています。特に、孤立しがちなのは、一人暮らしの高齢者や障害のある人だと言われています。加えて、そうした孤立しがちな人を吸収する地域そのもののつながりの希薄さも問題となっています。どうしたらこうした「孤立」を防ぎ、住みやすい地域になるのでしょうか。本講義では、コミュニティ・カフェ、コミュニティ・朝市、コミュニティ・ダンスといった、場所・時間の“共有”によって社会的な孤立を防ぎ、地域のつながりを深めた取り組みについてお話しします。

6

災害、復興、そして「人間安全保障」 (human security)

加治 宏基

(愛知大学 現代中国学部・助教)

地震、津波に加え東京電力福島第一原子力発電所事故という3重災害となった3・11東日本大震災から5年が経ちました。「安心・安全」を公認し始めた日本政府とは対照的に、みえない放射線被ばくに、なお苦しんでいる人たちは少なくありません。私たちは、社会の一員としてどう向き合うことができるのでしょうか。国連が1990年代の半ばに提唱した「人間安全保障」という概念をキーワードに、個人の安心・安全と国家の安全保障をつなぐ視座について考えます。

災害から学ぶ平和 ―安全保障の主体として―

これまで日本社会は様々な自然・人的災害に見舞われる度、復興への歩みを続けてきた。しかしその過程で社会(国家)の平和と個の平和が乖離する場面は少なくない。私たち一人ひとりの平和を社会(国家)の平和へと繋げるため、何が必要なのだろうか。「戦争は人の心の中に生まれるものであるから、人の心の中にこそ平和の砦を築かなければならない」とのユネスコ（国連教育科学文化機関）の理念から考えてみる。

8

水資源の活用現況 ―たかが水、されど水―

佐々木 正一

(オルガノ（株）名古屋支店長)

水の惑星とも言われる地球では水は豊富に存在する物質ではあるが、その物性は非常に特異的であり興味深い特性を持っている。また、水は日本では身近に豊富に存在するが、地球レベルで見れば限られた貴重な資源である。水資源は生命にとって無くてはならない物であることは言うまでもないが、我々はその物性・特性を活かして様々な分野で水を活用している。本講では、貴重な水資源の活用状況を色々な事例を交えて紹介しながら、水の重要性を再認識する機会を提供する。

10

ミクロとマクロのプランクトン学 ～プランクトン概論から有用性まで～

牧田 直子

(四日市大学 環境情報学部准教授)

プランクトンは生態ピラミッドの下層を構成し、生態系で重要な役割を果たしている。プランクトンと言うと微少なものを想像しがちだが、大きさは様々でプランクトンには非常に多様な生物群が含まれている。中には毒性のあるものや、大量発生によって有害になるものがある反面、食料や燃料としての有用性もある。この講義では、プランクトンがどのようなものか解説し、人との関わりの深いものを中心に紹介する。

12

公共交通再生をきっかけとした 持続可能なまちづくり

加藤 博和

(名古屋大学 大学院環境学研究科・准教授)

交通体系のありようは、生活・生産様式に大きな影響を与え、さらに国土・都市の空間構造をも規定する。20世紀後半以降はモータリゼーション進展が支配的であり、経済成長や都市域拡大に寄与したが、負の側面も顕在化している。そのメカニズムを踏まえ、深刻さを増す少子高齢化や地球環境問題などに対応できる持続可能社会に転換する引き金として、自動車に過度に依存した交通体系から脱却するための公共交通の再生が重要であることを、実例や具体方策を交え講義する。

14

メタボリックシンドロームの予防

- ・生活習慣とメタボリックシンドローム
- ・メタボリックシンドロームの予防と運動

佐藤 祐造

(愛知みずほ大学学長，大学院人間科学研究科特任教授)

近年における「文明化」された日常生活による身体運動量の減少は、欧米化した食生活と相まって、生活習慣病/メタボリックシンドロームを増加させ、最終的に動脈硬化性心血管障害(心筋梗塞、脳卒中)を招いている。食事の適正化と身体トレーニングの継続は、からだのインスリン抵抗性改善を介し、メタボリックシンドロームの予防・治療に有用である。生活習慣病予防・老化(サルコペニア)防止のための運動の行い方を紹介する。

主催者からのメッセージ

国連「持続可能な開発のための教育（E S Dの10年）」が2005年から展開され、最終年の2014年には愛知・名古屋で「E S Dユネスコ世界会議」が開催されました。世界会議終了後も、これまでのE S Dの成果をより発展させ、引き続き持続可能な社会の実現に向けて問題意識を高めていくことが期待されています。私たちが暮らす現代は、少子高齢化を迎えながらも、今後も益々技術開発は進み、より便利で快適な生活を求め社会は発展してゆく中で、それに伴う新たな課題が出てくることが予想されます。そこで本講座では、私たちが発展を続け、尚且つこの先の世代にも暮らしやすい環境を引き継ぐための最も基礎的な課題について、「生活の安全安心」「生活資材」「水と食料」「疾病予防」などの分野を入り口に“地球の使い方”について考え、持続可能な地球社会の実現について考察してゆきます。

＊更に詳しい講義シラバスは中頁をご覧ください！

	開催日	講義タイトル	講師
第1回	10/6	持続可能な地球社会Ⅱ:問題提起	村田 静昭
第2・3回	10/13 10/20	・ 衣と住による気候への挑戦 ・ 伝統衣装・民族衣装に見る気候の影響	浅野 千恵
第4・5回	10/27 11/10	“共有”からはじまる社会福祉	三輪 まどか
第6・7回	11/17 11/24	・ 災害、復興、そして「人間安全保障」 ・ 災害から学ぶ平和——安全保障の主体として	加治 宏基
第8・9回	12/1 12/8	水資源の活用現況：たかが水、されど水	佐々木 正一
第10・11回	12/15 12/22	ミクロとマクロのプランクトン学 ー プランクトン概論から有用性まで ー	牧田 直子
第12・13回	1/5 1/12	公共交通再生をきっかけとした 持続可能なまちづくり	加藤 博和
第14・15回	1/19 1/26	メタボリックシンドロームの予防	佐藤 祐造

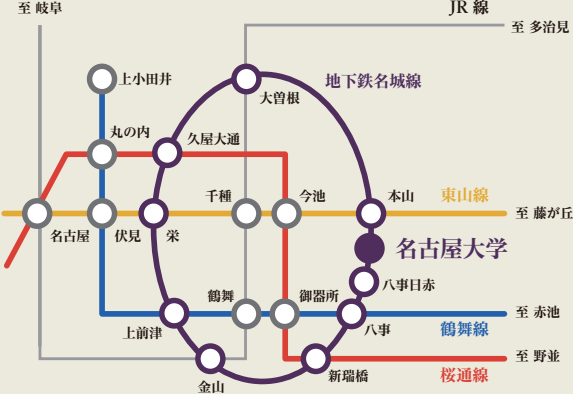
■申し込み方法

愛知学長懇話会ウェブサイトより受講申込書をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記事務局宛にEmail、Fax、または郵送でお送りください。

※申込書と併せて受講料¥5,000を下記口座へお振り込み下さい

*****受講料振込先*****
三菱東京UFJ銀行今池支店（263）
普通 0074011
口座名：「愛知学長懇話会」
（アイチガクチョウコンワカイ）

会場:名古屋大学内 環境総合館レクチャーホール



会場へのアクセス

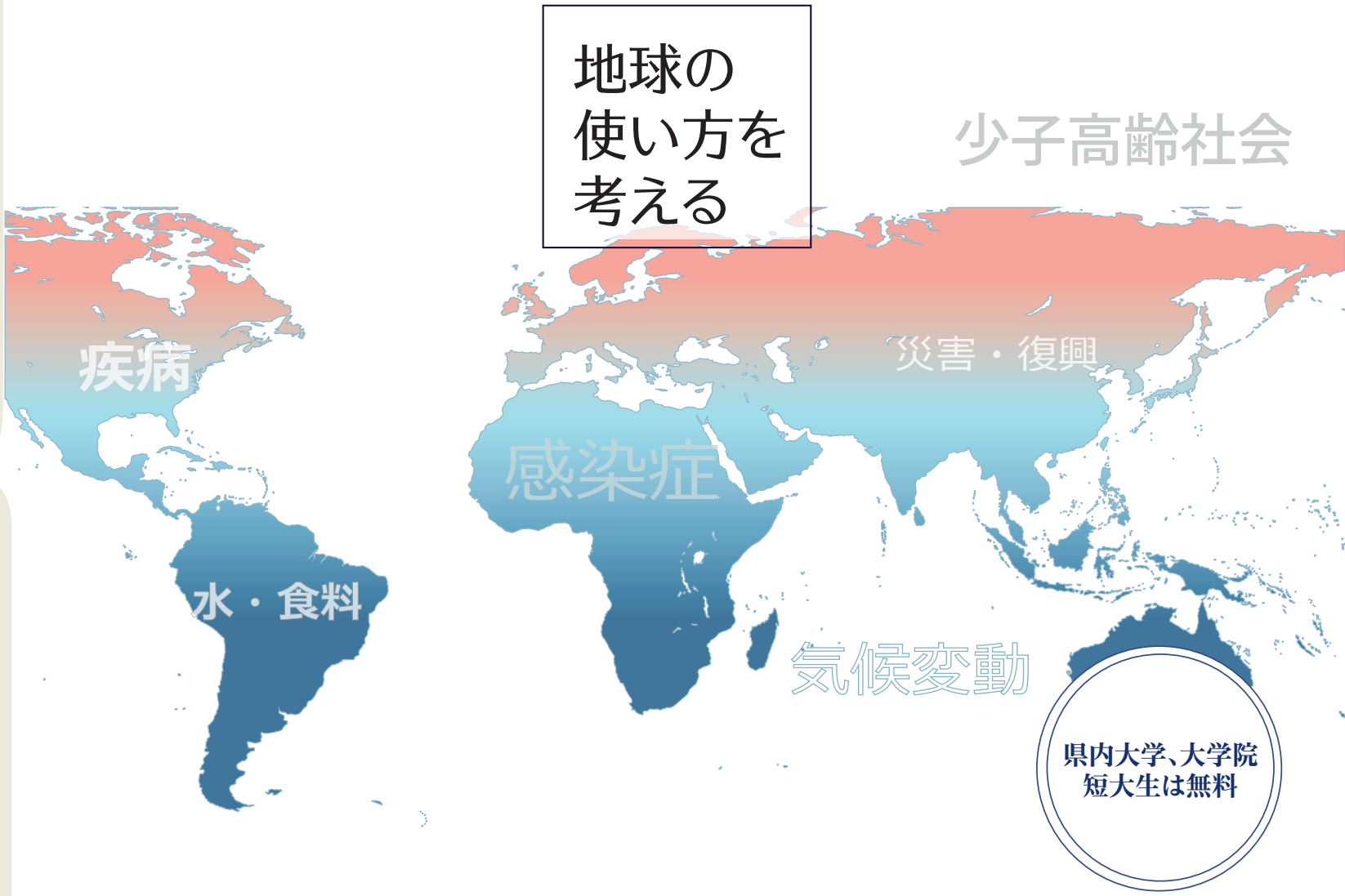
地下鉄名城線「名古屋大学」駅下車。2番出口より前方に進む。郵便局の前を通過し、一丁目の交差点を右折。最初の曲がり角を左折し、そのまま突き当たりまで進み、右折。右手の建物が環境総合館です。

愛知学長懇話会事務局

URL：http://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp E-mail：gakuchou@adm.nagoya-u.ac.jp
〒464-8601 名古屋市千種区不老町（名古屋大学総務部内） TEL：052-747-6587 FAX：052-789-2019

愛知学長懇話会 & なごや環境大学 共育講座
（平成28年度・後期）

持続可能な地球社会Ⅱ



開催期間	開講日時	コーディネーター	受講料	対象者
平成28年10月6日～ 平成29年1月26日	毎週木曜 17:50～19:20	村田 静昭 名古屋大学総長補佐 大学院環境学研究科教授	5,000円 県内短大・大学・ 大学院生は無料	・ 一般(成人) ・ 学生